

第3回松江市街地治水対策検討委員会 議事要旨

【日 時】 平成23年7月20日(水) 13:00～17:00

【場 所】 島根県職員会館 2階 多目的ホール

【出席者】 別紙参照

【内 容】

■松江市街地治水対策検討委員会について

・新委員紹介

⇒ 新たに城東地区町内会・自治会連合会会長及び城東地区治水対策協議会会長の佐々木委員、人事異動により島根県松江県土整備事務所長の福田委員の後任として、林委員、松江市建設部長の中島委員の後任として、石倉委員が新委員となった。

■議事

(1)○前回までの確認事項 ○流域基本高水流量 ○流域対策の各施設ごとの評価 ○治水計画案の選定と評価 ○今後の進め方について事務局より説明。

(質疑応答)

・流出解析モデルの検証について、どのようなパラメータを用いて計算しているのか。

⇒ 標準的なパラメータを用いて計算している。

・モデル検証は、データが少ないため平成21年7月からのデータを使用しているが、平成22年7月はどれくらいの規模の雨なのか。

⇒ 最大時間雨量が32.5mmであるため、2～3年の確率規模となる。

・計画降雨の選定の中で平成9年7月型の24時間雨量のピーク流量を採用しているが、下流部の大橋川の水位で流量が大きく変わってくると思うが、大橋川の水位はどの様に設定しているのか。

⇒ 今回、自己流氾濫で検討しているため、出水期の平均水位で設定している。

・大橋川の関係でダムや放水路が完成しつつあるが、こういったものが完成すれば、内水対策はどこまで緩和されるのか。

⇒ 大橋川の水位が上がった場合、松江市街地の水門は閉めて外水が入ってこないようにする。平成22年1月に松江市街地の内水対策案を示したが、上追子川の既存のポンプの能力を5m³/s 追加して設置する計画がある。

・中川の上流側は土地が低いため、遊水地区になっているが、放水路を設置することによって、ポンプがない放水路がどの様に活用されるのか。

⇒ 今回の検討は大橋川は洪水時の平均水位で設定しているため、放水路は水門は開けて水位差で流すことになるため、放水路は自然流下による効果があると考えている。

- ・筋違橋は今から400年前、松江城下ができた時の象徴の橋である。この橋梁を改良するのはかなり反対があると思う。もし、パブリックコメントに出すような時には、これはない方がベターだと思う。
 - ⇒ 治水上ネックとなるということで計画しているが、委員の意見を踏まえパブリックコメントの対象とする案にするのかは検討する。

- ・北田川の中流区間の部分改修について、あの辺りは水面勾配があればきくが、滞留地域になっていないか。
 - ⇒ 元々堀としてつくられた川であるため、松江堀川には河床勾配というものがない。そのため、通常時は水面勾配で流れている。しかし、水面勾配がついて流れていることには間違いないため、拡幅すれば洪水時はその分流れていくと考えている。

- ・北田川の中流区間は非常に流れが悪い。そのため、勾配が低いところに向かってドロがたまっており、暑くなると異臭がするとの住民から苦情がある。
 - ⇒ ヘドロ対策は維持修繕として対応したい。
- ・ゲリラ的に洪水が生じた場合には、自己流氾濫が起こることも生じるであろうが、内水をいかに流していくかが問題。早くポンプを設置してもらえば災害から守れるのではないか。
 - ⇒ 大橋川が上がるまでのところは自己流対策として今回示した検討案が必要であるが、上がった時の内水対策は別途検討しないといけない。

- ・京橋川は局部改良で家屋移転はないということでもいいのか。
 - ⇒ 仮橋等の施工計画に伴う家屋移転は生じる可能性はある。
- ・北田川の従来計画ではどうか。また、下流及び中流区間の改修ではどうか。
 - ⇒ 従来計画では54戸。下流区間改修では9戸、中流区間改修では24戸、中流区間部分改修では4戸。

- ・比津川は改修される予定はないのか。
 - ⇒ まずは松江堀川の1.3mを満足する計画を策定。流域対策も含まれるため、それに従って比津川の計画を検討する。

- ・各案の実現性はどの様な見通しなのか。
 - ⇒ どの案も地権者等の調整はこれからである。これは、公共事業につきものである。その点、どの案も実現性はあると考えている。また、流域対策については、あくまでも候補地である調整によっては違う候補地が該当する可能性もある。

- ・京橋川や北田川の川底のドロをとったら効果はないのか。以前船で歩いた経緯もあるが、竿を立てても1~1.5m入ってしまう。
 - ⇒ 北田川については、下流区間は暫定改修であり河床掘削が残っているため、掘削を行う予定であるが、京橋川については河床掘削は考えていないため、今後河床掘削の案も検討していく。

- ・もともと北田川の下流区間を改修をしたということは、中流区間も改修する計画をスタートしていたと考えてもよいのか。それが止まっているという理由は何か問題があるからなのか。

⇒ 下流区間が止まっているのは用地困難箇所があるため。下流区間の上流には奥谷川の合流部があり、そこから入ってくる水をスムーズに流すことより効果があるため改修区間に入れている。
- ・放水路について、合流が大橋川の上流部になるため、その分大橋川のHWL(計画高水位)も高くなる。それも考慮して検討していただきたい。
- ・放水路について、大橋川の改修が終わらないと効果がないのか。

⇒ 事業費はかかるが、バイパス的なものができるため、上流の水位を下げる効果が発現される。
- ・放水路か河川改修かの選択になるが、松江堀川の水位を下げるには一番近いところから抜く放水路案がよいと思う。
- ・北田川の中流区間、特に奥谷川の合流部は流れが悪い。狭いのが原因なのか。あの周りをもう少し川幅を拡げながら、多少でも流れを良くする方法はないのか。

⇒ 通常は朝酌川への流入防止のため、北田川水門は閉まっているため流れが悪くなっているが、洪水時は水門を開け良くなる。よって、川幅を拡げることには効果がある。
- ・治水対策案で様々な対策が上がっているが、上追子地区にポンプが追加される計画がある。対策は上流からやっても下流からやっても同じであると考えているが、県はどの様に考えているのか。

⇒ 比津川、中川、ポンプも含めて第4回で優先順位を決めたい。
- ・E案は放水路に頼りすぎている。しかも、大橋川の水位が上昇すると放水路の水門を閉めるため、放水路が全く機能しなくなる。
- ・現在尾原ダムと斐伊川放水路がほぼ完了しているが、大橋川の効果はどのくらいか。

⇒ 昭和47年洪水が来た場合、出雲平野で溢れていないとの想定のもとで宍道湖の水位は3.29mであるが、尾原ダムと放水路が完成すると、2.42mとなる。
- ・大橋川の水位が上昇すれば、ポンプなしの放水路では流れないのでは。

⇒ 今回の検討は松江市街地で降った雨が2時間で流れてくるものを想定しており、その時にはまだ大橋川の水位は上がっていないため、放水路からの水は流れる。しかし、大橋川の水位が上がる時には上流で降った雨が半日あるいは1日かけて流れてくるため、ピークが違っている。その時には内水対策は必要となる。
- ・景観上京橋川の橋梁部を改良するのは難しいと思われる。河床掘削でどこまでできるのか。

⇒ 河床掘削すると護岸の根入が足りなくなると、護岸も改修する可能性がある。

- 橋の周りを暗渠で抜くという方法はあるのか。
⇒ それも考えられる。
- 放水路について、排出口は宍道湖景観形成区域であるため、こういったデザインで水門を作るのかは大きな問題となる。
- 私も京橋川の局部改良はどうかと思う。暗渠や河床掘削でどこまでできるのか。また、できた後周辺の影響がどんなことがあるのか考慮して検討していただきたい。
- 環境の観点からいえば、常時流れをつけるか、水草が繁茂して生物によって水をきれいにするのも大事になってくるし、流れのない川であるため、人の手による管理も必要。また、城下町になじまないような生態系にならないように、在来種が住めるような工夫を啓発とともにしていただきたい。
- 橋梁部の局部改良をすることで水位の低下にどれくらい影響が出るのか。
⇒ 3つの橋梁部の局部改良で約7cmの影響が出る。
- 局部改良とはどのようなものか。
⇒ 前出しされている橋梁部について、上下流の川幅に合わせて拡張すること。
- 一つは放水路で早めに抜く案、もう一つは北田川の改修を進める案がよいのでは。その中で、筋違橋を残すような検討をすべき。
- 筋違橋を残すことを前提として、A案あるいはD案で検討して最終的に判断していかなければいけない。
- パブリックコメントは必ずやらなければいけない。
- かなり難しい話のため、これを即座にコメントできる人は多くはないと思う。パブリックコメントでは直接的に影響のある方たちに、より多くの意見を求めるべき。
- どういうレベルでパブリックコメントを出すのか。もっと分かりやすくして出さないと市民は分からない。
- 筋違橋はそれに代わる案で考えてもらいたい。あの橋は大事にしてほしい。
- 筋違橋の歴史に関する文献があれば教えてほしい。また、現在の橋はいつ設置されたのかも教えてほしい。

(まとめ)

□筋違橋を現状維持とした案で再度検討。委員へは持ち回りにて説明を行い、了解を得た後パブリックコメントを行う。

ただし、委員へ説明し了解が得られない場合は、第4回検討委員会で再度諮り、その後パブリックコメントを行う。

□今回は自己流氾濫に対する朝酌川(松江堀川)の治水対策案について説明したが、市民の方々により理解していただけるように、パブリックコメントではもっと分かりやすい資料を提供しないとイケない。

次回検討委員会開催予定:平成23年10月～11月